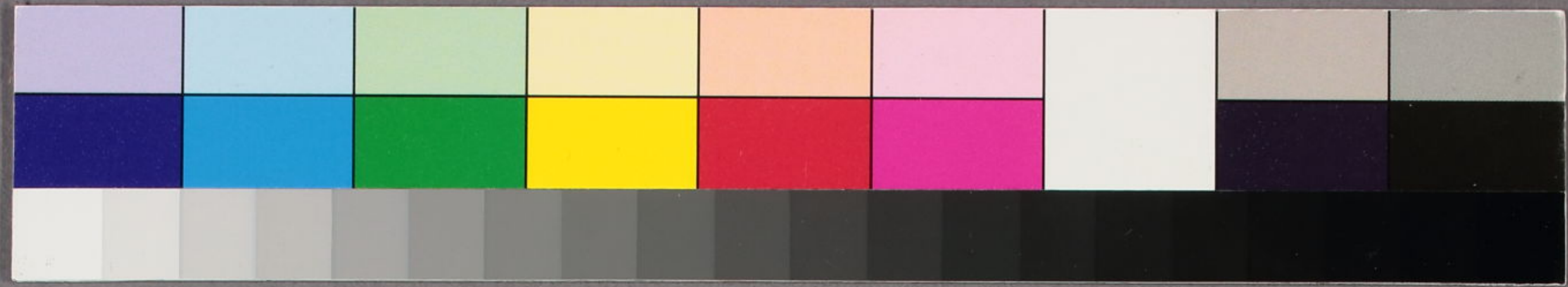


たのこむる歌集
坤





七月之部

乾坤

丁卯

文月

立秋

氣始

布種

初秋

殘暑

初風

稻熟

初月

花火

七夕

星合

银河

颯洗

降

置扇

相撲

龍田祭

露

露

秋雨

秋中

植物

一葉

教柳

木槿

薔

蘭

桔梗

如心

男丁

萩

瓢

福の草

編

西瓜

野菊

葛

萩

芒

鬼竹

竹花

夜行

善草

草

冬紅

蜻蛉

秋蟬

蛸

鳥

秋蝶

鶉

鳴

鶉

鹿

水鳥

鶴

葉子

鳴子

衣食

刺繡

拾得

門茶

盆月

生類

虫

雲虫

蛸

植物

一葉

神歌下 盆子 魂桐 迎火 送火
墓末 燈籠 切子 高竹籠 大木子
逆出入

八月之部

乾坤下 華月 八朔 田面 長夜
招き 招き 招き 野々 秋暮
月見 月 夕月 月 月 待宵
十三夜 月 秋月 二月 月 待宵
立待 待待 星月 植物下 初紅葉
梅嶽 芙蓉 花序 鶯 出出
穂上 尾上 秋後 草 暮
本蔵前 暮暮 鳥山 種乳 燈籠子
草 白露 鶴川 四州 干燭
形 生数下 尾 渡鳥 吹雪
新形 梅子 鶯籠 尾籠 河麻

衣食下 砥 石周 神祇下

九月之部

乾坤下 暮の目 後の雅 厚月 露時雨
秋深 行秋 冬梅 九月 植物下
菓 秋中書 四時 草葉 暮
檀のら 紅葉 梅の葉 柿の葉 柿の葉
智之に 暮林 栗 柿 宿水
生類下 紅葉餅 食数下 油 秋暮
神祇下 秋系 信非送 雜の部

十月之部

乾坤下 小斗 亥の子 時雨 初冬
栗 初雪 初霜 初水 冬
冬梅 伊気 巨燈 霜 雪
水 寒 舟 月 月 月
初山 切火 火并 占梅 掃

| | | | | |
|------|------|------|------|------|
| 構津 丁 | 住吉 | 生田 | 栢公 | 栢屋 |
| 新所 | 布引 | 有馬 | 雙通 | 丁寺 |
| 浪華 | 浪唐 | 姫野 | 近江 丁 | 浪 |
| 熊田 | 矢橋 | うす | 三井寺 | うす山 |
| 志賀 | 伊吹 | 石山 | 不登堂 | 伊勢 丁 |
| 神路山 | 五津川 | 宮川 | 寺付川 | 二男 |
| 尾津 丁 | 熱田 | 三河 丁 | 楠根岡 | 濱河 丁 |
| 不二 | 相模 丁 | 相模 | 江島 | うす |
| 武藏 丁 | 江戸 | 角田川 | 本寺 | 津州 |
| 三野 | 神田 | 新吉原 | 高唐 丁 | 落波 |
| 三島 | 下野 丁 | 幸野 | 皇分中 | 真宿 |
| 松島 | 信濃 丁 | 所橋 | 橋野 丁 | 勇根 |
| 白石 | 藤子 | 多松 | 宮津 | 赤穂 |
| 徳川 丁 | 新津 | 安島 丁 | ついで | 佐馬 丁 |
| 石見 丁 | 丹波 丁 | 橋立 | 出戸 丁 | 大社 |
| 如野 | 高野山 | 清路 丁 | 志都 | 紀伊 丁 |
| 洞山 | 荒巻 丁 | 言島山 | うす | 伴猿 丁 |

浪華五百題集卷之下

花屋番 鼎左輯

秋熟坤之部

文月 文月や草花のさき 秋風 見立
 文月や女侍のさき 門松 左桑
 文月のさき 紅葉 松柱
 文月のさき 柳 感
 秋立や雀のさき 鴉子 陀岳
 秋立やさき 鴉子のさき 見外
 秋立やさき 鴉子のさき 一止
 秋立や人出のさき 萩の家 金子
 秋立やさき 萩の家 一圭
 秋立やさき 萩の家 丁知
 秋立やさき 萩の家 彼人
 秋立やさき 萩の家 映門

二つあるお姑の音やらの事
 姑喜のら思ひくく
 姑喜子もあつた
 ちかきおちかき
 姑喜七海をえん
 姑喜ふらふら
 寺のわく
 海の水
 縁の世
 水のお
 向い
 美の
 山の井
 庭探
 湯の

兼秋

初女

山外

海法

長川

花伝

長尺

素足

此松

見外

除力

松傳

曲岸

喜池

蘭後

松伝

傳根ま
 湖山
 影の
 暮の
 存分
 何ぞ
 ひろ
 神垣
 又
 諸
 十
 初
 お
 け
 と
 姑

兼秋

初秋

泉池

雨翠

夫木

古

岸一

五

松伝

見折

岸一

圓中

系考

松家

雨外

素足

松傳

泉池

歌

三好秋也新... 母使... 蓮守
 三好秋也... 秋也... 性字
 三好秋也... 秋也... 松嶋
 三好秋也... 秋也... 香山
 三好秋也... 秋也... 白秋
 三好秋也... 秋也... 月坡
 三好秋也... 秋也... 花女
 三好秋也... 秋也... 共晴
 三好秋也... 秋也... 鳥歌
 三好秋也... 秋也... 言子
 三好秋也... 秋也... 岳風
 三好秋也... 秋也... 大善
 三好秋也... 秋也... 見外
 三好秋也... 秋也... 鳥歌
 三好秋也... 秋也... 由樂
 三好秋也... 秋也... 涼翁

歌

三好秋也... 秋也... 雪地
 三好秋也... 秋也... 婦牛
 三好秋也... 秋也... 見外
 三好秋也... 秋也... 西馬
 三好秋也... 秋也... 鼎友
 三好秋也... 秋也... 秋嶋
 三好秋也... 秋也... 香山
 三好秋也... 秋也... 乙良
 三好秋也... 秋也... 茶令
 三好秋也... 秋也... 花佛
 三好秋也... 秋也... 華一
 三好秋也... 秋也... 茶茶
 三好秋也... 秋也... 茶茶

下
土
春の日は融く... 其山
風や... 一葉
... 悠々
... 素直
... 梅雪
... 物嘆
... 鳥さ
... 空る
... 風標
... 閑令
... 城乞
... 砥山
... 石川
... 比叟
人... 世... 世... 世...

湯

春

春の日の清り... 比叟
... 蘭香
... 社流
... 泉池
... 岑北
... 白蔕
... 岳陰
... 船山
... 素直
... 高池
... 若女
... 松竹
... 昔鳥
... 石流
... 草子
... 土城

野

野原の草花は春の光に
あざやかに咲き誇る
野原の草花は春の光に
あざやかに咲き誇る

花

花は春の光に
あざやかに咲き誇る
花は春の光に
あざやかに咲き誇る

夜

夜の静けさ
星の光に
あざやかに
咲き誇る

花

花は春の光に
あざやかに
咲き誇る
花は春の光に
あざやかに
咲き誇る

羊

羊は春の光に
あざやかに
咲き誇る
羊は春の光に
あざやかに
咲き誇る

虫

虫は春の光に
あざやかに
咲き誇る
虫は春の光に
あざやかに
咲き誇る

薬

薬のしるし... 神楽の部

神楽の部

魂廻... 魂廻のしるし...

遊

善

善

横

子

遊のしるし... 子のしるし...

一物
其の味は甘く、切ると
この味は、切ると、
大なるや、切ると、
大なるや、切ると、
大なるや、切ると、

運量
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

八月 乾坤三部
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

八朔
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

日面
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

長庚
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

お
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、
切ると、切ると、

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

鹿

鹿の角は...

鹿角

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

種

種...

種

婦科

聖地北端の

山

婦科の

山

婦科の

山

白

婦科の

山

婦科の

山

テ

婦科の

山

婦科の

山

婦科の

山

テ

婦科の

山

婦科の

山

婦科の

山

婦科の

山

婦科の

山

乃

婦科の

山

婦科の

山

婦科の

山

一

山

二

山

三

山

四

山

五

山

六

山

七

山

八

山

九

山

十

山

十一

山

十二

山

十三

山

十四

山

十五

山

十六

山

河入中... 聖徳
 舟の照塔... 文書
 ... 松海
 ... 見外
 ... 孝石
 ... 世新
 ... 乙新

十月乾坤之部

十月

十月廿九日... 九龍
 ... 柏樹
 ... 岩倉
 ... 松海
 ... 此松
 ... 不取
 ... 乙新
 ... 梶友
 ... 海運
 ... 嵐の
 ... 日
 ... 伯夷
 ... 孝石
 ... 先友
 ... 松雲

小此

Handwritten cursive script, likely a continuation of text from the previous page.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

Handwritten cursive script.

寒葉

拾野

拾

Multiple columns of handwritten cursive script on the left page, corresponding to the '拾' header.

我乃小ヤリノ名ナクハ後ナリ 乃風

非柳ノ名ニシテハ後ナリ 此乃

後ナリノ所ニテハ後ナリ 陸海

後ナリノ所ニテハ後ナリ 島國

乃風ニテハ後ナリ 乃風

非柳ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

最

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

神歌之部

食

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

乃

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

頭巾

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

遊

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

十夜

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

東

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

冬

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

土月乾坤之部

乃風ノ名ニシテハ後ナリ 乃風

下
常々向ふてまやぬくめき 廿九

白鳥之部

王子酒 小振舞 舞のりやも子酒 秋暈
も子酒 常々向ふてまやぬくめき 波日

神祇之部

鈿止

ひまのこらきおや神々々々 陸上

ひまのこらきおや神々々々 陸上

ひまのこらきおや神々々々 陸上

ひまのこらきおや神々々々 陸上

ひまのこらきおや神々々々 陸上

ひまのこらきおや神々々々 陸上

神樂

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

長業

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

十月 神祇之部

粟又

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

寒月

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

植物之部

冬物

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

おろろお神樂のりやも子酒 二番

清

年の因出... 宗古

おもしろ... 宗古

旅多指... 宗古

短き... 宗古

禁二房... 宗古

あふ... 宗古

あの中... 宗古

門... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

春侍

禁二房... 宗古

あふ... 宗古

あの中... 宗古

門... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

年暮

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

園見

... 宗古

... 宗古

... 宗古

年暮

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

... 宗古

年暮

... 宗古

磯の井 磯の井まきくもあはれさ 石籠

お前 木を町や船きく 遠の音 雨籠

清水 糸をあや流る船のちいさの語り 鼎左

日枝 ことしは行はさふあはれあはれ 一比

専治 舟のよめをさしあひあひの場 月夜

松島 舟のよめをさしあひあひの場 月夜

正治 舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

通橋

遊川

舟田

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

舟のよめをさしあひあひの場 月夜

伏見

るふあゝのあはれをいふ

志を

本寺

飾りつゝあはれをいふ

由依

湯河

田山あはれをいふ

如傳

いそぎや年のけりし

志を

いそぎや年のけりし

見を

田原

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

鳴系

いそぎや年のけりし

見を

蓋置

いそぎや年のけりし

見を

太巻

いそぎや年のけりし

見を

六

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

大組

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

いそぎや年のけりし

見を

美の河を所り河や三笠山 柳一
ちれを吹出せし二つらん成成の 具を

油洲 名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

六田 ちれを吹出せし二つらん成成の
能ののしちあふらむの山 具を

南部 名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

新田 名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

河内 名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

後吉 名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

名正の早の二か年や柳を
能ののしちあふらむの山 具を

新印のり多書所 神の森 三十一

下野

京都 石巻の元くふけり新うし中 南極
見たり 陰のり新うり新うり 是

奥津

自身 和をやりりの新うり。新うり
こころのり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

信濃

物控 日御ておるふ新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

播磨

石名 物新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

香子

高の島 月新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

お花

新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

お花

新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

信濃

物控 新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

奥津

石名 新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり
新うり新うり新うり新うり

満月を望む所をいふは由 土着
北のけしきもあつていふは 土着
名力のあつてもいふは由の中 修力
他馬

音のしきもあつてもいふは由 修一
丹後

修力もあつてもいふは由 修一
石見
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一

修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一

志都

修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一

紀伊

修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一

高野

修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一
修力もあつてもいふは由 修一

下
子月すれそら福んや水の氷 工
造路

一平にやまや造路くくくく
那まのりやまーいんらま
作はあまーいんらまーいんらま

併發

銅山 家くふあまふおと林。や

海雲

言ふ 那まやたの寺のいんらま

那ま 那まより鳥鴨子まのての風 具左

大府 那まやまふ心くくくや物のま

那まのりやまのりやまのりやま

目録

小本二

目抄左自撰勺集

近刻

法書に記す事 蘇歌中にて示五知命し知らぬ以
来し所編りて世傳門名あり物花一程の
留りてははるる集 門人残

泰永四年 庚午正月吉且

江戸本石町十軒店

發行

莫 丈 助

尾州名古屋屋町直七丁目

永樂庵東四郎

大板北入宝寺町心林橋

河内屋源七郎

同本町心林橋

鹽屋彌 七

同北太島町心林橋

鹽屋忠兵衛

書肆

